

日本と韓国の大学生の依頼の場面での

Hedge 表現使用における男女差の比較

－主に丁寧さ（politeness）の観点から－

巖 廷 美
(オム・ジョンミ)

1. はじめに

日常生活において、人は円滑なコミュニケーションのために、言語的にも非言語的にもさまざまな工夫をしている。とりわけ依頼の場面では、自分のために相手に行動を起こさせるという性質上、相手に対する押しつけを少なくし、自分の要求を通すために、相手に失礼にならないように気配りをするものである。この気配りの戦略の一つに「丁寧さ（politeness）」¹があると考えられる。また、丁寧な言語行動のためにはさまざまな言語的手段が用いられるが、その一つとして Hedge 表現は重要な役割を果たしていると言えよう。そこで、本研究は、言語的にも文化的にも非常に類似点の多いと言われている、日本と韓国の依頼の場面での Hedge 表現の使用における男女の特徴について、主に丁寧さの観点から、実証的に比較検討するものである²。特に、性差に焦点をあてることにより、従来の性差と言語研究の分野で立てられた「女性が男性より丁寧な言葉遣いをする」という仮説の検証にもなると思われる。その上、従来の性差と言語研究は一つの文化の中で研究されがちであったが、異文化に視野を広げることによって、それぞれの文化・社会における女性語の特徴が明らかになると思う。本研究はこのような視点に基づいたものである。

2. Hedge 表現と丁寧さ

Hedge とは、文の間に挟みクッションで当たりを和らげるように単語や文をぼかし、言い方を和らげ丁寧なニュアンスを付け加える語句のことである。また、Hedge 表現は聞き手に対してショック緩和の役目を果たすので、

クッション行動³とも呼ばれている。たとえば、約束の日時を変更してもらうような依頼の場面で、「別の日に変えてもらえませんか」というだけではなく、「あの、申しわけないけれども、別の日に変えてもらえませんか」というような表現である。

では、Hedge 表現は丁寧さの理論の中で、どのように考えられているのだろうか。丁寧さに関して最も包括的な理論を示している Brown & Levinson (1978) は、Hedge とは、相手との間に心理的距離を置くことにより、相手を傷つけないようにするネガティブ・ポライトネス（消極的丁寧さ）⁴のストラテジーの一つであると述べている。また、語用論の立場から初めてポライトネスのルールを打ち出した R. Lakoff (1975) もポライトネスの三つのルール⁵の中で、Hedge はルール 2 の敬意（deference）の用法であると見なしている。

3. 本調査の概要⁶

3.1. 調査対象

日韓とも大学生を対象にした。性別以外の条件を揃えた日韓男女それぞれ 50 名ずつ、合計 200 名。年齢は 18 才から 30 才までで、所属校は日本側は東京近辺の 9 大学、韓国側はソウル近辺の 10 大学である。出身地は日韓とも主に首都圏中心で、共通語話者に限った。

3.2. 調査方法

依頼表現を使うような五つの場面を与え、実際にどのように言うのかをアンケート方式による会話完成テスト（Discourse Completion Test）により答えてもらった。資料とした総談話数は、被験者（50 名）× 性別（2）× 場面（5）× 国（2）、の 1000 談話である。その際の依頼表現を言う話し相手は、同じ専攻の同年齢のクラスメートで、学校で会えば軽い挨拶を交わすくらいの、それ程親しくない人⁷を想定してもらった。

場面設定は絶対的負担の度合の相違（大－中－小）による 5 場面である。すなわち、[場面 1] 教室の床に落ちているボールペンを拾ってもらう、[場面 2] 学校の教室で窓際に座っているクラスメートに窓を開けてもらう、

〔場面3〕どうしても必要なテキストをクラスメートから安くして譲ってもらう、〔場面4〕共同研究の相談のために先生のところへ行く約束を、私用で行けなくなったので、自分の代わりに行ってもらう、〔場面5〕学科セミナー旅行費を払うためにお金を貸してもらう（日：5千円、韓：2万ウォン）、の5場面である。

3.3. 分析方法

丁寧さの観点から、日韓男女の Hedge 表現の使用における特徴を比較するために、上記の調査方法により得られた計1000の談話資料に現れた Hedge 表現を、主に使用頻度、表現の種類、表現の意味的・文法的特徴に焦点をあてて分析する。この際、hedge 表現が語であるか句であるかによって、Hedge を語レベルと句レベルに分けて考察する。例えば、日本語の「あの」・「ねえ」、韓国語の「저기」・「저」などの間投助詞や「とても」・「かならず」のような強意語などが語レベルの Hedge 表現であり、日本語の「もしよかったら」、「もうしわけないんですが」とか、韓国語の「미안한 이야기지만」、「미안하지만」などは句レベルの Hedge 表現である。

4. 分析の結果・考察

4.1. 語レベルの Hedge 表現

本項では、主に、語レベルの Hedge 表現の種類とそれぞれ表現の使用頻度に焦点を当てて考察する。まず、その結果を表1と表2で示す。男性をM、女性をFとする。

(1) 使用頻度と表現の種類

男女の hedge 表現の使用頻度を日韓で比べてみると、まず、日本の場合、表1でみるように、場面1（M.26, F.16）で男性が女性より多くの Hedge を使用するだけで、他の場面2（M.25, F.27）、場面3（M.45, F.58）、場面4（M.29, F.62）、場面5（M.25, F.64）においては女性がより多く使用している。これら Hedge の総使用頻度は、男性150回、女性227回で、女性が男性の約1.5倍多く使っている。

一方、韓国の場合は、表2でみるとおり、女性は場面2（M.56, F.62）

表1 語レベルの Hedge 表現の男女別使用頻度（日本）

	場面1		場面2		場面3		場面4		場面5		合 計			
	M	F	M	F	M	F	M	F	M	F	M		F	
ちょっと	14	8	20	18	6	2	12	10	9	4	61	40.7%	42	18.5%
ちょっとだけ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0		1	0.4
もうちょっと	0	0	0	0	10	14	1	0	0	0	11	7.3	14	6.2
もうちょっとだけ	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0		1	0.4
すこし	0	0	2	2	2	2	0	0	1	0	5	3.3	4	1.8
もうすこし	0	0	0	0	23	25	0	0	0	0	23	15.3	25	11.0
もうすこしだけ	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0		1	0.4
あの	3	2	1	1	0	0	2	2	3	8	9	6	13	5.7
ねえ	2	4	0	4	1	0	0	3	0	4	3	2	15	6.6
ねえねえ	3	2	0	2	0	0	0	0	0	2	3	2	6	2.6
もう	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0		2	0.9
まあ	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0.7	0	
あー	4	0	2	0	0	0	1	0	2	5	9	6	5	2.2
えー	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0		5	2.2
うーん	0	0	0	0	2	4	0	0	0	0	2	1.3	4	1.8
じつは	0	0	0	0	0	0	1	1	0	3	1	0.7	4	1.8
もしかして	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0		1	0.4
〔強意語〕 どうしても	0	0	0	0	0	0	5	21	1	5	6	4	26	11.5
すごい、すごく	0	0	0	0	0	2	0	4	0	4	0		10	4.4
ぜったい、かならず	0	0	0	0	0	0	0	0	7	20	7	4.7	20	8.8
ほんとうに、まじで	0	0	0	0	0	1	5	17	2	6	7	4.7	24	10.6
とても、とっても	0	0	0	0	0	1	1	2	0	0	1	0.7	3	1.3
やっぱり	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1	0.7	1	0.4
	26	16	25	27	45	58	29	62	25	64	150	100	227	100

と場面5(M. 32, F. 46)で、男性より多く hedge 表現を使用しているが、他の場面1(M. 52, F. 50)、場面3(M. 47, F. 42)、場面4(M. 63, F. 54)においては男性の方が女性より多く使用していて、どの場面においても男女差は日本のように顕著ではない。合計の使用頻度をみても、男性252・女性254で、はっきりとした性差は現われない。また、男女あわせた日韓の総使用頻度は日本377回・韓国506回で、韓国の方が高くなっている。

次に、日韓男女の Hedge 表現の使用特徴を表現の種類の観点から見て見よう。まず、日本の場合、表 1 を見ると、使用された Hedge 表現の総種類は23種類で、その中で、男性は16種類、女性は22種類で、女性の方がより多様な Hedge 表現を用いていることがわかる。特に、男女とも「ちょっと」が最も多く使われているが、使用頻度や比率を比べてみるとかなりの差があることがわかる。男性は61回で、男性の使用している全表現の40.7%を占めているのに対して、女性は42回、18.5%にすぎない。これらのことから、日

表2 語レベルの Hedge 表現の男女別使用頻度 (韓国)

	場面 1		場面 2		場面 3		場面 4		場面 5		合 計			
	M	F	M	F	M	F	M	F	M	F	M		F	
총	48	48	44	47	24	23	27	19	18	21	161	64.4%	42	18.5%
좀만	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	2	0.8	1	0.4
좀더	0	0	0	0	1	3	0	0	0	0	1	0.4	3	1.2
조금	0	0	1	2	2	1	0	0	0	0	3	1.2	3	1.2
조금만	0	0	0	4	7	8	0	0	2	0	9	3.6	12	4.7
저	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2	0.8	1	0.4
저기	2	1	2	1	0	0	1	0	1	1	7	2	4	1.2
저기요	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0.4	0	
있잖아(-니)	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2		2	0.4
그냥	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	1	0.4	2	0.8
제발	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0.4	1	0.4
아마도	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0.4	0	
사실은	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0.4	0	
[強意語] 정말 (로)	0	0	0	0	1	0	13	16	1	4	15	6	20	7.9
정말정말	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0		1	0.4
진짜	0	0	0	0	0	0	2	1	1	0	3	1.2	1	0.4
매우	0	0	0	0	0	0	2	1	1	0	3	1.2	1	0.4
아주	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0		1	0.4
너무	0	0	0	0	8	0	0	2	0	2	8	3.2	4	1.6
무척	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	1	0.4	1	0.4
기필코	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0		1	0.4
꼭	0	0	0	0	1	2	5	6	8	15	14	5.6	23	9.1
	52	50	56	62	47	42	63	54	32	46	252	100	254	100

本の男性は語レベルの Hedge 表現の種類が乏しく「ちょっと」に集中しているが、女性は多様な表現を使用していることがわかる。これは、男性より女性のほうが Hedge 表現の使用について敏感で、また、使う必要性が大きいからではないかと思う。

一方、韓国の場合は、表 2 で見るように、使用された Hedge の総種類は 24 種類で、その中で女性は 21 種類、男性は 20 種類で、男女の違いはほとんど見られない。韓国で男女とも最も多用している Hedge 表現は「좀」で、男性は 161 回、女性は 158 回で両方とも 60% 以上を占めている。このように、韓国では、表現の選択においての男女の違いは現われていない。

(2) 強意語の使用

ここでは、従来、女性語の特徴の一つであると言われている強意語 (intensifier) の使用について考察したい。語レベルの Hedge 表現を詳しくみると、日韓とも多くの強意語が使用されていることに気づく。日本の場合は、Hedge 表現のうち、「もう」、「どうしても」、「すごい、すごく」、「ぜったい、かならず」、「ほんとうに、まじで」、「とても、とっても」、「やっぱり」、が強意語であるが、その使用頻度を男女別に見ると、男性は計 22 回、女性は計 86 回で、女性が男性のほぼ 4 倍になっている。

韓国では、「정말 (로)」、「정말정말」、「진짜」、「매우」、「아주」、「너무」、「무척」、「기필코」、「꼭」、という強意語が見られる。その使用頻度を男女別に調べてみると、男性は 44 回、女性は 53 回で、日本と同じように女性の方がより多く強意語を用いているが、日本ほど男女の差は大きくない。韓国では男性も相当数の強意語を使用していると言えよう。

4. 2. 句レベルの Hedge 表現

本項では、句レベルの Hedge 表現の種類とそれぞれの表現の使用頻度における男女の差について比較検討する。その結果を表 3 及び表 4 にまとめる。

(1) 使用頻度と表現の種類

日韓の句レベルの Hedge 表現の男女別使用頻度を見て見ると、日本は場面 2 (M. 6, F. 6) と場面 3 (M. 4, F. 4) では男女同数で、場面 1 (M. 9, F. 11)、場面 4 (M. 24, F. 37)、場面 5 (M. 22, F. 36) では女性の使

表3 句レベルにおける Hedge 表現の男女別使用頻度（日本）

	場面1		場面2		場面3		場面4		場面5		合 計			
	M	F	M	F	M	F	M	F	M	F	M		F	
[条 件]														
よかったら	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1.5%	1	1.1%
もしよかったら	0	0	0	1	0	1	0	1	1	4	1	1.5	7	7.4
もしよければ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0		1	1.1
大丈夫だったら	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0		1	1.1
もし大丈夫だったら	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0		1	1.1
できれば	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	2	3	1	1.1
もしできれば	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0		1	1.1
小 計	0	0	1	1	1	3	0	2	2	7	4	6	13	13.8
[謝 罪]														
わるいけど	6	3	3	2	1	0	5	3	6	7	21	32.3	15	15.9
わりいけど	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	2	3.0	0	
わるいけれど	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1	1.5	1	1.1
わるいけれども	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1.5	0	
わるいんだけど	1	3	1	2	1	0	9	15	4	8	16	24.6	28	29.7
すまないけど	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1.5	0	
すいませんけど	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0		2	2.1
すいませんが	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0		1	1.1
すみませんけど	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0		1	1.1
すみませんが	1	2	0	0	0	0	0	0	1	2	2	3.0	4	4.4
もうしわけないけど	0	0	1	0	0	0	0	0	3	1	4	6.1	1	1.1
もうしわけないけれど	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1.5	1	1.1
もうしわけないんだけど	0	0	0	0	0	0	3	9	2	4	5	7.6	13	4.2
もうしわけないけれども	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1	1.5	1	1.1
もうしわけないのだけど	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0		1	1.1
もうしわけないですが	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1.5	0	
もうしわけないんですが	0	1	0	0	0	1	2	1	0	0	2	3.0	3	3.2
もうしわけないんですけど	0	0	0	0	0	0	1	2	1	1	2	3.0	3	3.2
もうしわけないのですが	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0		1	1.1
もうしわけありませんが	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0		2	2.1
ごめんけど	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1.5	0	
小 計	9	11	5	5	3	1	24	35	19	26	60	92.3	78	82.9
[ためらい]														
いきなりなんだけど	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0		1	1.1
なさけないんだけど	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1.5	0	
はずかしいけど	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0		1	1.1
はずかしいんですが	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0		1	1.1
小 計	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	1	1.5	3	3.2
	9	11	6	6	4	4	24	37	22	36	65	100	94	100

表 4 句レベルにおける Hedge 表現の男女別使用頻度 (韓国)

	場面 1		場面 2		場面 3		場面 4		場面 5		合 計			
	M	F	M	F	M	F	M	F	M	F	M		F	
[謝 罪]														
미안한데	4	8	3	6	1	0	15	13	1	7	24	60%	34	59.6%
미안하지만	6	6	4	4	0	1	2	7	2	2	14	35	20	35.1
미안한이야기지만	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2.5	0	
미안하게됐는데	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0		1	1.8
죄송하지만	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2.5	1	1.8
小 計	11	15	7	10	1	1	17	21	4	9	40	100	56	98.2
[条 件]														
괜찮다면	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0		1	1.8
小 計	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0		1	1.8
	11	15	7	11	1	1	17	21	4	9	40	100	57	100

用がより多くなっている。すべての場面を通じてみた合計の使用頻度も男性 65回、女性94回で女性が男性の約1.5倍になっている。

韓国側も、男女同数の場面 3 (M. 1, F. 1) 以外の、場面 1 (M. 11, F. 15)、場面 2 (M. 7, F. 11)、場面 4 (M. 17, F. 21)、場面 5 (M. 4, F. 9) では女性の方がやや多く使っている。合計の結果も男性40回・女性57回で、女性の Hedge 表現の使用がやや多くなっている。句レベルの Hedge 表現の男女別使用頻度においては、日本も韓国も女性の方がより多く使用していることがわかる。日韓それぞれ男女あわせた総使用頻度においては、日本側が159回、韓国側が97回で、語レベルの Hedge 表現の結果とは反対に、日本側の使用頻度が韓国を上回っている。この事実を、韓国の句レベルの Hedge 表現の種類の少なさとあわせて考えると、依頼の言語行動において丁寧度を高めるのに、日本では語レベルの Hedge が、韓国では句レベルの Hedge がより重要な役割を果たしているということがわかる。

次に、句レベルの Hedge 表現の種類に着目して、日韓男女の使用特徴について考察してみよう。まず、日本の場合は、計31種類の Hedge 表現が使われ、その中で、男性は17種類、女性は26種類である。句の Hedge の選択において女性の方がよりバリエーションに富んでいることがわかる。しかし、

韓国の方は計6種類の中で、男性が4種類、女性が5種類の表現を用いていて、表現の種類の面での男女の違いは現われていない。

(2) 意味・文法と丁寧さの関係

韓国語においては句レベルのHedge表現の種類は非常に限られているのに対して、日本では多様な表現が用いられている。韓国語の句のHedge表現は句末の語形の選び方による丁寧度の違いはあまりないが、日本語の場合は句末の語形の細かい変化によって、表現の丁寧度が微妙に変わってくる。このため、その選択が多様になり、それぞれの選択は話し手の丁寧意識を反映したものになっていると思われる。

そこで、以下では、日本語の句のHedge表現の意味と文法に注目して、丁寧度との関係を探ってみたいと思う。日本語の句のHedgeは韓国語と違って非常にバリエーションに富んでいるが、それぞれの表現の意味を考えると、以下のように、三つに大きく分類することができると思う。

- (a) 聞き手に対する押しつけ度を最小限にしようとする話者の意図が現れる表現

もしできれば、もしよかったら

- (b) 聞き手に対する話者の謝罪の気持ちが現れる表現

わるいけど、すみませんけど、もうしわけないけど

- (c) 依頼することについての話者のためらいの気持ちが現れる表現

はずかしいけど、なさけないんだけど

このように意味的に三つに分けて考えてみると、表5で見ると、日本人が最も多用している句のHedge表現は、男女とも聞き手に対する謝罪の気持ちをあらわす表現である。これは、日本人は依頼の言語行動に際して、まず、依頼行動を起こすこと自体を謝ることが、本論に入る前の心理的地ならしとして必要だと考えているということであろう。

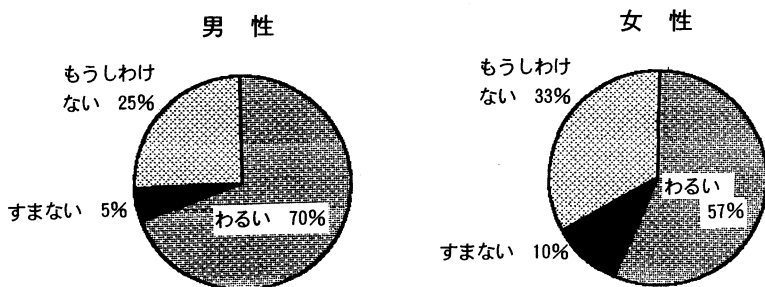
さらに、最も使用頻度の高い謝罪のHedge表現は、述語の違いによって、「わるいー系列」、「すまないー系列」、「もうしわけないー系列」に分けられると思う。この三つの謝罪のHedge表現は丁寧度の観点からは、もうしわけない>すまない>わるい、の順になると思われる。これら、三つの系列

表 5 日本語の句レベルの Hedge 表現の意味的区分による使用頻度

意味区分	M		F	
a	4	6.2%	13	13.8%
b	60	92.3%	78	82.9%
c	1	1.5%	3	3.2%

の男女の使用頻度は図 1 のようになっている。図 1 は使用頻度をパーセンテージで示したものである。図 1 を見ると、使用率は男女とも、わるい > もうしわけない > すまないの順に多くなっているが、各々の系列の使用率を男女別に見てみると、最も丁寧度の高いと思われる「もうしわけない」は男性 25%・女性 33% で女性の使用率が高い反面、最も丁寧度の低いと思われる「わるい」は男性 70%・女性 57% で男性の使用率が高くなっている。つまり、女性は同じ場面で同じ謝罪の Hedge 表現を用いても、男性より丁寧度の高い表現を使用しているのである。

図 1 述語別に見た謝罪の hedge 表現の男女の使用率 (%)



さらに、三つの系列の中で、丁寧さに関わると思われる文法的特徴について検討する。ここで、丁寧さに関わる文法的特徴というのは、「わるい」と「もうしわけない」の句形が、述語の後の「のだ」や「んだ」の有無により、「わるい・もうしわけない+接続助詞」のパターンと「わるい・もうしわけない+のだ・んだ+接続助詞」の二つのパターンに分かれることである。これらの二つのパターンを丁寧さという観点で考えると、微妙な差であ

るとしても、「のだ」や「んだ」を伴っている後者の方がより丁寧度の高い表現であろう。国広（1984）によると、「のだ」の機能は、「既成命題を後の視点から振り返り、二時点の間にある関係があるものとしてとらえる⁸⁾」ことだとしている。さらに、「です」に比べて「のです」が優しく聞こえるのは、『です』が直接的表現であるのに対して、『のだ』を入れると、現状と繋がりがながらも命題は過去に押しやられてしまい、それだけ間接的となるためである⁹⁾と述べている。そこで、「わるい」・「もうしわけない」系列を「のだ」の有無に基づいて、分析してみたところ、次のような結果が現われた。

表 6 「のだ」の有無による句の Hedge 表現の男女別使用頻度

「のだ」の有無	M		F	
	頻度	比率(%)	頻 度	比率(%)
わるい・もうしわけない+接続助詞	30	53.6	20	28.6
わるい・もうしわけない+のだ+接続助詞	26	46.4	50	71.4
	56	100.0	70	100.0

「のだ」の含まれている表現の使用においては、女性が71.4%、頻度で言えば、男性のほぼ2倍に達しているのに対して、「のだ」の含まれていない表現は、男性が女性の約2倍になっている。

5. おわりに

日本と韓国の依頼の場面で使用される Hedge 表現における男女の違いを丁寧さの観点から比較分析した結果、まず、語レベルの Hedge 表現においては、日本の場合、女性の使用頻度が男性より高くなっており、しかもその表現もバリエーションに富んでいることがわかった。しかし、韓国では使用頻度や表現の種類における男女差はほとんど現われなかった。句レベルの Hedge 表現においては、日韓とも女性の方がより多く使用していることがわかった。そのうち、韓国の場合は頻度における男女差が少し見られただけで、他の点においては差は見られなかったが、日本の場合は、頻度だけではなく、表現の種類においても女性がより多様な表現を用い、さらに、その表

現の意味や文法の面からも、女性がより丁寧度の高い句の Hedge 表現を多用していることがわかった。

こうした異文化間の比較研究から、従来の性差と言語研究の分野で、あらゆる文化においてユニバーサルであると考えられている「女性は男性より丁寧に話す、それは女性語の本質である」という大前提は再考の余地があることがわかる。さらに、男女のある特定の場面における言語行動は文化的コンテキストにより、動的で相対的であることが実証できたと思う。今後は、統計手法などの具体的な分析方法を広げつつ、日韓の文化的違いの原因分析に焦点を当て、さらに追求していきたい。

[注]

-
- 1 本稿で、丁寧さ（politeness）とは、狭義の敬語行動における意味ではなく、「丁寧さは円滑なコミュニケーションのために話し手が聞き手に対して示す配慮である」とする Brown & Levinson（1978）の言うポライトネスの概念である。
 - 2 本稿は、嚴廷美（1997）「ポライトネスにおけるフェミニズム言語研究の再考－日本と韓国の大学生の依頼談話における丁寧度の男女差の比較を通じて－」（東京大学大学院総合文化研究科言語情報科学専攻の修士論文）の一部に加筆、修正を加えたものである。Hedge 表現以外の文レベルと談話レベルにおける分析については嚴廷美（1997）で述べている。
 - 3 クッション行動の説明については国立国語研究所（1990）pp.126に述べられている。
 - 4 ポライトネスのストラテジーは、井出（1986）、北尾（1988）に詳述されている。
 - 5 Lakoff は丁寧な言語行動の為のルールとして、次のような三つの原則を提示した。
 1. Formality（礼法）－ keep aloof（距たりをたもて）
 2. Deference（敬意）－ give options（相手に任せよ）

3. Camaraderie (親愛) – show sympathy (相手の気持ちになれ)
(Lakoff (1975) pp.64–73)
- 6 具体的な調査対象や調査方法については、前掲、嚴廷美 (1997) に述べている。
- 7それほど親しくない人というのは、親疎の度合いを最も親しい場合を5とし、最も親しくない場合を1というふうに5段階スケールにおいた時、2ぐらいの親疎関係の人である。
- 8 国広 (1984)、pp. 6。
- 9 同論文、pp. 8。

=参考文献=

- ・井出祥子 (1982) 「待遇表現と男女差の比較」『日英語比較講座 文化と社会 第五巻』大修館書店
(1986) 『日本人とアメリカ人の敬語行動』南雲堂
- ・荻野綱男 (1988) 「日本語と韓国語の聞き手に対する敬語用法の比較対照」朝鮮学報第136
- ・川成美香 (1985) 「要求表現に見られる丁寧度の男女差」『社会の中の言語－記号・人間・環境の総合作用』F. C. パン他編、文化評論出版、1955, pp72–90(1993)「依頼表現」『日本語学』Vol. 12 pp.125–134
- ・北尾謙治、北尾・S・キャスリーン (1988) 「ポライトネス－人間関係を維持するコミュニケーション手段」『日本語学』7–3、明治書院
- ・김선희 (1991) 「여성어에 관한 고찰」『목원대학 논문집』第19輯
- ・国広哲弥 (1984) 「のだの意義素覚え書き」『東京大学言語学論集』
- ・国立国語研究所 (1990) 『敬語教育の基本問題 (上・下) 大』大蔵省印刷局
- ・南不二男 (1972) 「日常会話の構造－とくにその単位について－」『言語』2号大修館書店

- Brown, P. (1980) How and Why are women more polite : Some evidence from A Mayan community. S. McConnell-Ginet, R. Borker, and N. Furman (eds.), *Women and Language in Literature and Society*, P.111-139. New york : Praeger
- Keenan, Elinor (1974). Norm-makers, norm-breakers : Uses of speech by men and women in a Malagasy community. In Richard Bauman & Joel Sherzer (eds.) *Explorations in the ethnography of speaking* (p.125 - 143). Cambridge : Cambridge University Press
- Lakoff, Robin (1975) *Language and Women's place*. New York : Harper and Row
- Leech, Geoffrey (1983) *Principles of Pragmatics*. London : Longman
- P. Brown and S. Levinson (1978) Universals in Language usage : Politeness Phenomena. *Questions and Politeness*, ed. E. Goody, Cambridge : Cambridge University Press. pp. 55-288